

# 東京支部だより

第4号

編集・発行 清陵高等学校  
諒訪清陵東京支部  
同窓会事務局  
〒270-11 我孫子市白山2-15-2  
林尚孝方  
TEL 0471-83-2726

恒例の東京支部の総会の日取りが10月22日(金)と決まり、次第に近づいて参りました。今年はわれわれ六〇回生が当番幹事として設営を受け持つこととなり、これまでに何回も打ち合せの会合を重ね、準備万端手落ちなきよ、当日を前に満を持してい

るところです。

帽に棍の葉の徽章を光らせ、朴歯の高下駄の音に心を躍らせて清陵の校門をくぐったのは今から四十年近く、昔、昭和二十九年の春のことでした。

当時の校舎は、明治以来風雨に打たれて来た貴様十分といったたたずまいのもので、そこに諒訪中学以来の伝統の香りを嗅ぎとったものでした。発散させた各種多様な体験が、実に

一九九三年度

## 定期総会案内

一、日 時 十月二十二日(金)午後六時  
一、場 所 東洋軒(日本青年館4階)  
電話 ○三一三四七五一一五二五  
(JR信濃町・千駄ヶ谷駅、地下鉄外苑前駅下車)

### 議事

- (1) 一九九二年度会務・決算報告
- (2) 一九九三年度事業報告
- (3) その他

### 懇親会

一、会 費 (七、〇〇〇円)

当番幹事60回生 次期当番幹事61回生 サブ幹事70・80回生

東京支部の諸兄姉には、是非ともご都合をつけてご出席いただき、多感な若い血をたぎらせた、懐しくも貴重な青春の昔に戻って、楽しい一夕をごしていただきことを心より願っております。

思えばわれわれ六〇回生が、自継

變化にもかかわらず、質実剛健とか

節は

た。

その後二年生になって移った新校舎が、今では更に建て替えられ、平成元年に落成をみた近代的な建物になっています。

成年元年に落成をみた近代的な建物に

なっていることに時の流れを感じ

ます、が、様々な面に見られる表面の

変化にもかかわらず、質実剛健とか

節は

た。

懐しい思い出として残つており、今

も「心のふるきと」として、その後

の人生の原点となつて來たように思

います。

何かの折には必ず歌つた第一、第

二校歌、その中の私の特に好きな

い。

山高の骨ゆく青雲の  
高き志を身に負いて』  
とい箇所で、この行間に満ちる氣  
はなく、これまで気づかなかつた意  
概が、その後の人生の折節において  
自分を支えてくれたように思  
います。

東京支部の諸兄姉、老いも若きも  
実社会に出てから暫くは余裕に欠  
け、ご無沙汰していた東京支部総会  
に、ここ十数年は都合のつく限りで  
かかるだけ出席しておりますが、  
東京支部の諸兄姉、老いも若きも  
10月22日には神宮の日本青年館に集  
い、諒中、清陵の良き青春時代に戻  
り、ともに盃をあげようではありませんか。

## 今年も神宮の森へ!

東京支部総会 10月22日(金)日本青年館

今井将隆(60回)

出席して昔の仲間と話すと忽ちにし  
て悪童時代に戻り話が尽しません。  
同時に、単に懐旧談を楽しむだけで  
なく、これまで気づかなかつた意  
外な新発見をすることが多いことを  
感じます。



# 一九九三年度本部定期総会報告

篠原 健(60回)

天体観測の長い歴史を持ち、藤原長ご不例ご欠席のため、来賓持田校咲平先生はじめ幾多の学士を輩出した清陵。空の清陵、宇宙の清陵と云つてもよい我らが母校の伝統を飾るにふさわしく、平成五年度定期総会は六月二十七日宇宙飛行士毛利衛さんの講演をもって幕を開けた。梅雨時にしてはまずまずの天候に恵まれ、諏訪市文化センター大ホールは小中学生を含め一〇〇〇名を越える聴衆で満員となつた。講演会は諏訪地方市町村教育委員会協議会と清陵高校同窓会の共催で行なわれたが、まず宇宙開発事業団筑波宇宙センター長官沢政文君(六〇回生)が「宇宙開発の現状と未来」と題して講演し、続いて毛利さんから「宇宙から帰還して今考えること」という演題で講演が行なわれた。

終了後席を変え、文化センターF会議室で定期総会が開催された。黙禱に続き今井副会長の開会のことば、小平副会長の会長挨拶(小首会)

席の小首会長からの祝電が披露され、一日も早いご本復をお祈りする次第である。最後に各地支部長さんの紹介、次回当番幹事(六一回生)

の挨拶があつて閉会となつた。

懇親会は同じ敷地内の「諏訪市勵

く婦人の家」に会場を移して行なわれたが、最高齢のご出席者古村敏章さん(九十四歳)の乾杯に始つて大変な盛りあがりであった。校歌齊唱の頃には老いも若きも一つに融合合ひ、どの顔も清陵時代に逆戻りしたかのようであつた。

なお、毛利さんの講演で印象的で介されるところで、これは見逃すわけにいかないこととなつた。

議事に入り、四年度会務報告、決

算報告、五年度事業計画・予算案が承認され、続いて百周年記念事業計

画修正案が付議された。特に百周年事業については特別寄付を求めるか否かについて議論が集中した。結局

お志のある方からの寄付は有難く頂戴するが、一律の呼びかけはしない

ことで感心しておられたが、最後の質疑でも難しい質問が出て、諏訪人

の面目躍如という所であった。

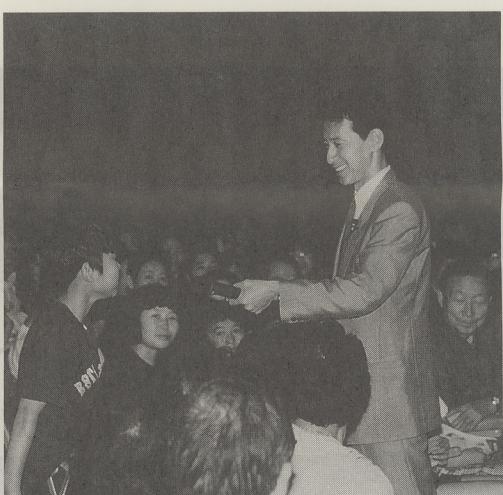
講演の内容については、来る東京

ただきたい。

支部総会においてもスライドで一部

紹介する予定であるので、期待い

講演する毛利衛氏



聴衆の質問に答える

いよいよと言おうか、やつとと言  
おうか、同窓会総会の当番幹事学年  
が巡ってきた。

前年の支部総会への同期生の参加  
者が数名だっただけに、東京支部会

員の大量動員の役が務まるのか、一  
同気にしながらの準備開始であった

が、前年幹事の五八回生や林事務局  
長など先輩方や、サブ幹事の六〇・  
六九回生諸兄の応援を得て、一〇月

田明夫氏の挨拶があつた。

議事に入り、林事務局長の会務報  
告が資料に則つて行われ、続いて  
常任幹事会で審議された「支部会則  
の一部変更」と「副支部長」名選任】

克氏(五八回)・宏氏(六〇回)・攻  
氏(六七回)四兄弟揃つての参加は  
見事だった。

懇親会の始まりは、宮坂醸造から

## 第一六回東京支部総会報告

矢崎悦郎 (59回)

二日の支部総会當日にござ着けた。

例年当番幹事が知恵を絞る独自イ  
ベントは、「同期生ジャーナリストに  
よるトークショウ」を本部総会に譲

り、代わりに、諏訪の同期生に手配  
してもらった「御柱祭ビデオ」を上  
映することにした。当時は、国際放

映の鎌倉さん(五七回生)が制作し、  
「ニュースステーション」で放映され  
た「御柱祭ビデオ」と併せて開会前

に上映し好評だった。

総会は玉木裕君の司会で、当番学  
年を代表して金子政喜君が開会挨  
拶、黙禱の後、支部長の小平祐氏、  
同窓会長の小菅重男氏、校長の持

田明夫氏の挨拶があつた。

中でも、小平均氏(五一・五五回)・  
克氏(五八回)・宏氏(六〇回)・攻  
氏(六七回)四兄弟揃つての参加は  
見事だった。

懇親会の始まりは、宮坂醸造から  
ー我々陸和会(60回生)におまか  
ー

壇上に勢ぞろいした当番学年の(五  
九回生)を背に松沢亮氏が指揮、清  
水が丘に心を馳せつつ、一同心をひ  
とつにして校歌を合唱した。

最後は、平成五年東京支部総会  
の挨拶で締め括り、定刻の八時三〇  
分終了した。

せください——来年一〇月にまたお  
逢いしましょう!との横断幕を持

つ大勢の同期生を代表して、次年度  
当番幹事を務める今井将隆氏が力強

い挨拶で締め括り、定刻の八時三〇  
分終了した。





「理想の花」は咲いたか咲かないか  
判然としないうちに、私は今年五十  
歳という年を迎えた。我らが白線  
帽をかぶり、「金色の民」で足ふみな  
らしていた頃には、五十五歳とい  
う當時の定年直前の男達は、皆オジッ  
サマにみえた。また、実際記憶に残  
る肉体的印象は、まさにオジッサマ  
であつた。所が、朝夕鏡に映る我身  
の面相も、写真も、決して、若き日  
に見た五十五歳の男達と同じではな  
い。昨年の日本青年館での在京同期  
の集会に出てみて、皆さん小生と同  
じく、若々しく、決してかつての五  
十五歳の「初老」ではなかつた。

「医者になりたけりや、京都へ行  
け。」と牛正に言われた六十年安保を  
皮切りに、七十年安保、日韓・大学  
紛争と来て、私は東大で医学に専念  
し、三年前に開業。他の領域の同期  
生は、高度成長後半のルーキーとし  
て入社し、モーレツ社員を経てバブ  
ルの管理職といった人生の経過であ  
る。それにもかかわらず、それでも集つた同期の  
面々は「初老」どころではなかつた。  
夜毎妻の腹上で時を告げる猛者もい  
れば、これから新たに会社をはじめ  
るという新進も居て、昔の「定年」  
(=停年)活動性の停止の片鱗  
もみられなかつた。

「逆年齢」という考え方  
長生きを願望するは、始皇帝に止  
まらず人類一人一人の願いである。  
そして今の日本は、戦後短時日にし  
て長寿社会に突入し、二十一世紀に  
は四十五人に一人は高齢者という  
誕生と後死から数えてしか  
るべきものであり、…後ろ死  
にその一部を紹介したい。

「人生を誕生と死の間に開まれ  
た時間だとすれば、年齢は常に『前  
』と後死から数えてしか  
によつてはずいぶん『若返つてい  
る』わけである。」  
つまり、悲観的な高齢化社会も、  
明治・大正時代の生命表から、「推  
定逆年齢」が同じ年の人を捜して  
みる、男性で四〇代後半、女性  
で四〇代半ばになる。つまり現代  
の六〇歳の人の年齢を後ろから数  
えてみれば、明治・大正の四〇代  
の人と同じなのである。考え方によ  
つては、この「若返つていい」人  
線を辿る。気分若返るのは大いに結  
構であるが、生命体を甘く見て、無  
用のダメージを与えづけ、病に倒  
れるは、悪いオジッサマである。

もつ一つ、首から下はピンシャン  
しても、頭がオメデタクなつて  
しまつては、これまた、最も悪いオ  
ジッサマである。こうならないよ  
にするにはどうしたら良いのか。答  
は簡単である。脳をどんどん使えば  
良いのである。即ち、主に大脑に酸  
素とグリコーゲンがどんどん注ぎ込  
まれるような精神活動を行なえば良  
いのである。ボルノをみても、Hな  
妄想をしても、香り高き芸術作品に  
感動しても、趣味道楽に充しても、  
的にはどんどん社会としては若返つ  
ていく。しかし、個々の人にとって  
は、死は個別に訪れるものである。  
例えは、現代の六〇歳の人の推  
定逆年齢は、男性で一九・九四年、  
女性で二四・〇年である。これを

明治・大正時代の生命表から、「推  
定逆年齢」が同じ年の人を捜して  
みる、男性で四〇代後半、女性  
で四〇代半ばになる。つまり現代  
の六〇歳の人の年齢を後ろから数  
えてみれば、明治・大正の四〇代  
の人と同じなのである。考え方によ  
つては、この「若返つていい」人  
線を辿る。気分若返るのは大いに結  
構であるが、生命体を甘く見て、無  
用のダメージを与えづけ、病に倒  
れるは、悪いオジッサマである。

でも、若い者に比べればその回復は遅い。例えは発ガンの分子生物学的  
メカニズムも、DNAにおこる突然  
変異(発ガン)を素早くカバーし、  
修復してしまつ防衛機序によるが、  
五十五歳を折れ目に、はつきり下降  
線を辿る。気分若返るのは大いに結  
構であるが、生命体を甘く見て、無  
用のダメージを与えづけ、病に倒  
れるは、悪いオジッサマである。

使ってているかぎり、ボケ老人になる  
おそれはないであろう。

## 良いオジッサマ、悪いオジッサマ いかに老いるべきか

木 隆 (60回)

「超高齢社会」が到来する。我々も例  
えば六十年生は、十年経てば六十五  
歳となり、確実に「高齢者」の範疇  
に入る。所が、現今のマスコミをは  
じめ、世の中の論議は、役立たずの  
定逆年齢としてみると、六十五  
歳の男性の平均余命が、ある時点  
で五年だとすると、この人は「年  
齢は六十五歳」、「推定逆年齢は十  
五年」ということになる。

例えは、現代の六〇歳の人の推  
定逆年齢は、男性で一九・九四年、  
女性で二四・〇年である。これを



## 東京支部の現況

データベースから東京支部の現勢

を見ると次のとおり。

## 一、同窓会東京支部会員の定義

(1) 首都圏東京、神奈川、埼玉、千葉、群馬、栃木、茨城の在住の同窓生(ただし、退会申入れ者を除く)。

(2) 転居して首都圏を離れたが支部会費を納入している同窓生。

## 二、会員現勢・総数三、四九四名(住所不明者二六九名を除く)

## (1) 都県別会員数

内訳 東京都一、八六六名

神奈川県一六八〇名 埼玉県

千葉県四二二名

茨城県五五五名 群馬県

栃木県一二四名

その他五七名

## (2) 年次別会員数(別表1)

## 三、会費納入状況(一九九一・四・

## (1) 納入者総計一、〇四三名

一九九七・三、会計期)

年度別納入額および人数別

表2

## 計報

謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。(敬称略)

氏名	年次	逝去年月日
甲斐 正	(56回)	1986.9.28
柳平 照雄	(56回)	1988.12.2
片倉 二郎	(26回)	1989.12.18
坂本 嘉男	(38回)	1992.3.15
川原田忠男	(31回)	1992.6.13
久保 克郎	(33回)	1992.6.17
小川 洋	(49回)	1992.6.20
茅野 茂次	(24回)	1992.8.13
小平 正男	(27回)	1992.8.21
後町 要	(26回)	1992.10.5
内藤 正士	(36回)	1992.10.20
降幡 紘	(66回)	1992.10.25
茅野 重雄	(46回)	1992.11.3
武居 脩一	(45回)	1992.11.8
保延 醇一	(41回)	1992.11.18
島田 衛	(29回)	1992.11.21
松木 善長	(31回)	1992.11.24
岩波 文彦	(44回)	1992.11.28
寛 正典	(34回)	1993.1.14
佐藤 嘉重	(40回)	1993.1.24
宮 晨	(37回)	1993.1.28
土橋三四郎	(21回)	1993.2.19
三輪 敦	(46回)	1993.4.23
小松 醇郎	(27回)	1993.6.11
浜 正一	(35回)	1993.6.12
湯沢 清	(41回)	1993.7.17

(事務局に連絡が入った方々です)

## 編集後記

四月半ばに最初の編集会議を開いてから四か月余。多くの方々に原稿をお寄せいただき、毎号を手懸けておられるベテラン編集者の手腕に助けられ、何とか発刊の見通しが立ててきた。ホツと一息入れ、額の汗を拭うと、外にはひぐらしの声。空あくまでも澄める秋もまぢかだ。

別表1 年次別会員数と会費納入結果(7月15日現在)

回	現員	不明	計(費)	回	現員	不明	計(費)	回	現員	不明	計(費)
17	1	0	1( - )	42	53	0	53(32)	69	80	4	84(20)
18	2	0	2( - )	43	67	0	67(33)	70	77	10	87(14)
19	1	0	1( - )	44	67	0	67(31)	71	52	13	65(14)
20	1	0	1( - )	45	63	0	63(27)	72	48	12	60(10)
21	7	0	7( - )	46	81	0	81(37)	73	38	14	52( 6 )
22	5	0	5( - )	47	84	0	84(40)	74	64	13	77(10)
23	8	0	8( - )	48	85	1	86(30)	75	36	10	45( 3 )
24	2	0	2( - )	49	128	3	131(35)	76	27	9	36( 3 )
25	12	0	12( - )	50	104	3	107(44)	77	39	11	50( 8 )
26	9	1	10( - )	51	119	1	120(40)	78	25	15	40( 7 )
27	11	0	11( - )	52	132	2	134(51)	79	28	15	43( 7 )
28	28	0	28( - )	55	34	0	34( 8 )	80	15	9	24( 2 )
29	14	0	14( - )	56	125	4	129(43)	81	18	11	29( 2 )
30	20	0	20( - )	57	129	3	132(49)	82	16	5	21( 2 )
31	23	0	23( - )	58	116	4	120(45)	83	63	18	81(15)
32	29	4	33( - )	59	113	4	117(37)	84	9	1	10( 0 )
33	30	0	30( - )	60	122	2	124(49)	85	38	5	43( 2 )
34	32	0	32( - )	61	91	7	98(31)	86	2	1	3( 0 )
35	37	0	37( - )	62	94	3	97(20)	87	2	0	2( 0 )
36	37	2	39( - )	63	98	8	106(33)	88	5	0	5( 0 )
37	26	1	27(11)	64	80	3	83(28)	89	3	2	5( 0 )
38	45	0	45(27)	65	72	5	77(12)	92	1	0	1( 0 )
39	41	1	42(23)	66	86	6	92(20)				
40	38	0	38(21)	67	68	9	77(12)				
41	64	0	64(35)	68	74	14	88(14)				
								計	3494(269)		(1043)

注) ① ( )内は現会計期(1992.4.~1997.3.)会費納入者の人数

75歳以上(36回以前)の会員は会費免除

② 不明者は以前東京支部に登録されていて現在所在不明のもの

③ 前会計期(1987.4~1992.3.)は昨年3月で終了

別表2 年度別納入額および納入者数

前期納入額総計	(1987.1.~1992.3.)	5,993,670円
内訳	~1987年4月 小計	70,000円 (7名)
	1987年4月~ 小計	3,378,200円 (1,111名)
	1988年4月~ 小計	342,000円 (110名)
	1989年4月~ 小計	43,600円 (9名)
	1990年4月~ 小計	1,247,285円 (435名)
	1991年4月~ 小計	912,585円 (170名)
今期納入額総計	(1992.4.~1997.3.)	4,401,185円
内訳	1992年4月~ 小計	4,351,185円 (1,021名)
	1993年4月~ 小計	50,000円 (12名)

# 球史を飾る大活躍

野球部、松商学園を破り、春季北信越大会へ

後輩がどのように入り組んでいたのか、卒業生としては気にならぬものである。文武両道といふ母校の伝統は、今どのような状況にあるのだろう。

陵深志戦以来、気になる存在の深志である。現代つ子の後輩もまた深志アレルギーがあるので、どうか。  
いずれにしても、清陵にとつて久しぶりの快挙である。松商戦、深志戦の記事をお楽しみいただきたい。

まず、野球であるが、第88回春季北信越地区長野大会では準決勝で松商学園を10対7で破り、決勝では佐久高校に破れたが準優勝した。その結果県代表として北信越地区大会に出場、1回戦で新潟の十日町高校を破り、2回戦で富山の不二越工業高校に敗れた。南信地区、長野県大会での活躍を次頁に見開きで紹介する。

高校総体への出場権を獲得した。女子でも、シェルフオアとダブルスカルで優勝し、高校総体への出場を決めた。高校総体では、残念ながら入賞こそできなかつたが、健闘した。冬季オリンピックにスケートで出場した上原三枝さんに代表されるよ

で紹介する。

うな華やかな女子生徒の活躍に敬意を表する。

となり、期待を担つて二回戦から登場したが、松本深志高校に逆転で3対4で敗れた。見出しが

苦笑(4頁に掲載)。四十余年

に塩嶺越えをして行なつてた清

(林尚孝)

# 清陵、松商に12 安打浴びせ快勝

県大会

本塁打を含む12安打を浴び  
せて快勝、初の北信越大会で  
出場を決めた。

し、渡辺の走者一掃の右中間へ一塁打で逆転。二回は伊藤の2点本塁打で有利に試合を進めた。五回には五味、藤森弘の二塁打など、5長短打球を集中して、4点を取りきり放した。

松商は初回、桐原の右前打のあと、浅輪の2点本塁打で先制。五回に1点を返されたあと、六回回計池本の長短適時打で2点を加えるなど追いすがつたが、清瀬渡辺の緩急をうまく使った粘りの投球の前にかわされ

△準決勝（代表決定戦）  
◇上田市営  
松商学園  
2000-12-11

42004000X

〔松〕市川、上松、山田



【松商学園—諏訪清陵】

諏訪清陵は初回、2死満界

に成功（市営上田）

から渡辺が走者一掃

の右中間2墨打を放ち、逆転

日

幸

1993年(平成5年) 6月4日 金曜日

諏訪清陵の北信越大会  
初出場までの道のりは、  
けつして楽なものではな  
かった。諏訪地区大会準  
優勝で臨んだ南信地区予  
選の初戦では飯田と対  
戦。試合はシーソーゲー  
ムで進み、七回裏にスク  
イズで逆転して7-6で  
逃げ切った。

県大会出場権をかけた  
代表決定戦(準々決勝)  
では、飯田長姫の主戦  
沢にてこすり前半は長姫  
のペースで、五回を終つ



諏訪清陵ナインは、銀メダル  
(5月24日、上田市営球場)

## の県代表

勝した長野工と対戦。清  
陵は自慢の打線が長野工  
投手陣に襲いかかり、毎  
点を入れ、守ってもエー  
ス渡辺が南農の反撃を一  
点に抑え4-1で快勝。

点を奪い七回コールドゲ  
ームで大勝。準決勝進出  
を決めた。清陵の北信越  
は3割1分6厘と高いア  
ベージュ。盗塁が18個と  
次の墨を意欲的に狙う。  
北信越本大会への出場  
をかけた代表決定戦(準  
決勝)は、強豪で県大会  
優勝候補の最右翼に挙げ  
られた松商学園。試

合は初回に松商が2点本  
塁打で先制したが、その  
裏諏訪清陵は、松商のエ  
ースで甲子園投手の市川  
一、パームボールなども  
投げ分ける。控えは遊撃  
の伊藤で、ストレートを

第八十八回北信越地区高校野球大会(主催・北信越地区高野連)は四日から、富山県の富山市民球場を主会場に行われる。同大会に出場する長野県代表は佐久と諏訪清陵。佐久は昨秋に続き三季連続四回目となるが、諏訪清陵は昭和二十四年から始まった同大会には春、秋を通じて初めての出場となる。明治二十八年(一八九五)に創立された諏訪清陵高は、平成七年に創立百周年の節目を迎えるが、今回の野球部の北信越大会出場は、学校史に新しい歴史の一ページを加えることになり、同窓生たちの期待も高まっている。

たが、終盤に岡谷南が着  
を見せた。一回戦の南安  
日々と加点。最終回にサヨ  
ナラを許し、3-1で準  
優勝となつた。

続く県大会で諏訪清陵  
は、決勝を含めて四試合  
とも素晴らしい試合展開  
を予選で二十二年ぶりに優  
勝した長野工と対戦。清  
陵は自慢の打線が長野工  
投手陣に襲いかかり、毎  
点を入れ、守ってもエー  
ス渡辺が南農の反撃を一  
点に抑え4-1で快勝。

点を奪い七回コールドゲ  
ームで大勝。準決勝進出  
を決めた。清陵の北信越



(17) (第三種郵便物認可)

長野県野球連盟

# チーム打率316、機動力が身上

## ☆ナインの顔ぶれ☆

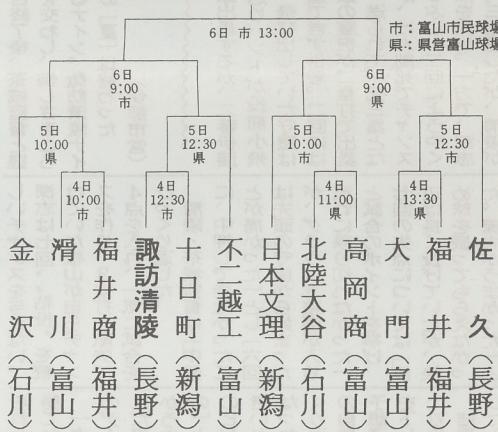
【部長】	田中 延男	【監督】	茶城 啓二		
打	順	年	身長・体重	投打	率
④	守屋 光浩	3	167	55	右左 .483
⑥	伊藤 治	3	173	65	右右 .462
⑦	五味 克敏	3	175	70	右左 .333
③	藤沢 大輔	3	176	70	右右 .250
⑨	五味 克仁	2	174	68	右右 .471
⑤	雨宮 大吾	3	174	65	右右 .200
①	渡辺啓太郎	3	172	65	右右 .250
②	藤森 弘善	3	170	70	右右 .154
⑧	下平 貴史	2	168	62	右右 .296
⑬	花岡 憲一	3	172	73	右右
⑩	諏訪雄二郎	3	168	60	右右
⑪	中原 辰徳	2	175	69	右右
⑫	関 雅之	2	172	63	右右
⑭	藤森 俊樹	3	160	60	右右
⑮	立木 貴浩	3	164	55	右右
⑯	小関 光浩	3	168	58	右左
⑰	宮沢 康弘	3	168	65	右右
⑲	山田 剛	3	164	62	右右

## 初出場までの足どり

### 【南信地区予選】

▽2回戦	諏訪清陵	7 - 6	飯田
▽3回戦	諏訪清陵	3 - 1	飯田長姫
▽準決勝	諏訪清陵	5 - 4	東海大三
▽決勝	諏訪清陵	3 - 4	岡谷南
【県大会】			
▽1回戦	諏訪清陵	4 - 1	南安曇農
▽2回戦	諏訪清陵	18 - 1	長野工
▽準決勝	諏訪清陵	10 - 7	松商学園
▽決勝	諏訪清陵	4 - 11	佐久

## 北信越高校野球大会組み合わせ



準決勝の対東海大三戦は、諏訪地区大会決勝と同じカード。一回に1点を先制した清陵だったが、三回に東海のパワフルな打線に渡辺がつかまり、4点を入れられて逆転。五回に清陵が4-4に追いつき、九回裏に敵失で1点を入れてサヨナラ勝ち。三試合連続の逆転勝ちで、夏の県大会でのシード権を手中にした。南信地区予選の決勝は岡谷南が相手。一回に3点を先行した清陵だつ

て逃げ切った。県大会出場権をかけた代表決定戦(準々決勝)では、飯田長姫の主戦北沢にてこすり前半は長姫のペースで、五回を終わって0-1で長姫のリード。終盤に入ってから小刻みに得点を重ねた諏訪清陵が、3-1で逆転勝ち。県大会への出場を決めた。



北信越高校野球県大会代表決定戦(準決勝)で松商学園を破って初の本大会出場を決めた諏訪清陵ナインは、銀メダルを胸にした

## 春、秋通じ初の県代

松商の反撃をしのいで10-7で逃げ切り、初の北信越大会への出場を決めた。決勝は佐久に4-11で敗れた。

諏訪清陵の攻撃の特徴は機動力野球。一番の守藤は足もあるため、出塁後は盗塁。三番五味克敏、四番藤沢、五番五味克仁のクリーンアップで走者をかえす。六番以下の雨宮、渡辺、藤森弘、下平も好機にしぶとい打撃を見せるのも、得点の幅を広げている。チーム打率

合は初回に松商が2点本塁打で先制したが、その裏諏訪清陵は、松商のエース甲子園投手の市川の制球の悪さにつけて4四球に渡辺の適時打などで4点を入れて逆転。二回には伊藤の2点本塁打、四回には試合を決定づける4点を入れ、松商の反撃をしのいで10-7で逃げ切り、初の北信越大会への出場を決めた。決勝は佐久に4-11で敗れた。

北信越本大会は四日午前9時から富山市民球場で、北信越五県の代表十校が参加して開会式。諏訪清陵は同球場での第二試合(午後零時半)に新潟県第一代表の十日町と対戦する。初戦に勝つと、五日は球場を県営富山球場に会場を移して地元富山の優勝校、不二越工業と準決勝進出をかけて対戦する。なお、諏訪清陵ナインは一日に諏訪を出発。大会前日の三日に球場で感触を確かめ流した。

## 清陵ナインの健闘を祈ります

## ◆端艇(ボート)

県予選 6月12日 下諏訪端艇

- a. 男子シェルフォア 3'27"69 優勝

C 岡西 正明 (2年)  
S 武井 英明 (2年)  
3 鳴志田 玄 (2年)  
2 福田 隆浩 (3年)  
B 深井 康志 (3年)

- b. 女子シェルフォア 3'53"49 優勝

C 米山明日香 (2年)  
S 秋山由紀子 (3年)  
3 古原 理子 (2年)  
2 柳沢みどり (2年)  
B 会田 琴子 (2年)

- c. 女子ダブルスカル 4'01"21 優勝

S 矢沢 友恵 (3年)  
B 北原 理恵 (3年)

高校総体(戸田漕艇場)

- a. 男子シェルフォア

8月5日 予選4組 4位  
3'39"78 敗者復活戦へ  
8月6日 敗者復活3組 2位  
3'28"43 準々決勝へ  
8月7日 準々決勝5組 3位  
3'43"43 敗退

- b. 女子シェルフォア

8月5日 予選3組 1位  
4'00"07 準々決勝へ  
8月7日 準々決勝6組 3位  
4'05"09 敗退

- c. 女子ダブルスカル

8月5日 予選4組 2位  
4'04"52 準々決勝へ  
8月7日 準々決勝4組 2位  
4'04"51 準決勝へ  
8月8日 準決勝1組 4位  
4'03"23 敗退

## ◆陸上競技女子3000m(小尾麻美:3年)

北信越大会:県営富山陸上競技場

6月18日 決勝 5位 9'46"52

高校総体:栃木県総合運動公園陸上競技場

8月2日 予選1組 18位 10'04"26

1993年(平成5年) 7月22日 木曜日

(14)

▽二回戦<sup>○</sup>伊那市営  
諏訪清陵 0010000002-3  
松本深志 000000040×-4

【諏】 渡辺一藤森弘【松】 松山・松本△三塁打<sup>II</sup>  
藤森弘(諏) △二塁打<sup>II</sup> 藤沢(諏)  
①: 深志が七回に3安打  
に2敵失を絡めて4点を奪  
放して三回戦に進んだ。  
1点を違う深志は七回、  
先頭の松山が敵失で出塁す  
る。死後、八番内野安打で統  
計走松山がかえり同点。一、  
二番が四球、内野安打で統  
計走松山が九回に2点  
を取られたが、4-3で逃

げ切った。  
清陵は三回に1点を先制  
し、九回には3連打で2点  
を返したが及ばなかった。  
清陵にとっては、回に先頭  
が出ながらバント失敗での  
併殺、二回にも死三塁の  
いい、シード校の清瀬を突き  
いて二死満塁となり三番鳥  
羽の二ゴロが、敵失を誘い  
(初戦敗退)、試合に悔  
放して三回戦に進んだ。  
1点を違う深志は七回、  
二者がかえって3-1と逆  
転。四番崎崎の右前打  
でささり1点を追加した。  
その後松山が九回に2点  
を取られたが、4-3で逃

けた。  
諏訪清陵・守屋光浩主将  
は、深志の黒岩監督が試合  
前に描いていた展開とな  
り、4-3でシード校を退  
けた。

諏訪清陵・松本深志戦  
は、先頭の守屋から始まつた  
のが痛かった」とし、六回

黒岩監督の描いた展開は  
「清陵は足攻があり、波に  
乗ると手つかづけられない。序  
盤に1点をやらずにしねの。  
のいいでいわばエラーなど  
からチャンスが来る。打線

深志に逆転喫す  
9回の反撃届かず

序盤の逸機  
最大の敗因



試合終了後、奈城監督と握手  
手を交わし、悔しさをこら  
えるナイン。諏訪清陵ナイ  
ンの「夏」は終わつた  
(伊那市営)

深志は七回、「粘投」を続  
けていた松山が自らのチヤ  
ンを作り、3安打と敵失で  
4点を入れ、一気に試合を

ひっくり返した。  
清陵・奈城監督は「中盤  
に中押しできなかつたこ  
とが痛かつた」とし、六回

に延長と  
きついた。それに延長と  
のピッチをしのいだのが大  
きな黒岩監督は、「なかなか  
の」としながら「一、二回

のデータをそそえ試合に臨  
むた初戦で、試合をひつ  
くり返して勝ったのが選手  
の自信となつていて」と、  
予想通りの展開でシード校

を下した試合にしてやつ  
たりの表情。  
結果的には、奈城監督が指摘  
したように、序盤の攻防が  
試合の流れを左右するポイ  
ントとなつた。清陵が一、  
二回に得点していれば勝敗  
の行方はわからなかつたか  
もしれない。

の送りバントが投前小飛  
球。飛び出していた守屋は  
帰塁できず併殺。二回には  
4-1でシード校を退

けた。  
先頭の藤沢が二塁打で出塁  
し、送られて死三塁とな  
るが、けん制死でチャンス  
が、グラウンド整備が入り  
流れに乗り切れなかつた

と試合のポイントを挙げ  
た。深志が「うまかつた」と  
七回の失点については「渡  
辺は良く投げていたが、決  
まり返して勝ったのが選手  
の自信となつていて」と、  
予想通りの展開でシード校

を下した試合にしてやつ  
たりの表情。  
結果的には、奈城監督が指摘  
したように、序盤の攻防が  
試合の流れを左右するポイ  
ントとなつた。清陵が一、  
二回に得点していれば勝敗  
の行方はわからなかつたか  
もしれない。